

事業計画書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進などの事業を行う。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査の実施。財団が管理する森林に関わる阿寒川水系上流域における2河川（キネタンベツ川、チクショベツ川）で降雨量、流量、土砂濃度等の調査、水の量・質などの現状把握を行い、流域森林の状況と河川との関わりを引続き調査する。

事業費

500,000円（前年度予算 540,000円）

(2) 人材育成事業

1) 一歩園自然セミナー事業

阿寒をはじめとする北海道内の野生動植物や自然現象、自然との関わりなどをテーマとして釧路市など近隣市町村において自然セミナーを開催し、広く自然に対する意識を深める一助とする。

事業費

500,000円（前年度予算 500,000円）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行う。

事業費

1,000,000円（前年度予算 1,000,000円）

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

阿寒湖をはじめとする釧路地域において児童、生徒を対象とした実体験型自然観察会（ネイチャーウォッチング・森の楽校等）を実施し、自然環境の保全に深い理解と関心を持ち行動ができる人材の育成に寄与する。

事業費 660,000円（前年度予算 700,000円）

2) 自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する活動並びに調査研究、及びその普及啓発用報告書または成果品の刊行に対して助成を行う。

事業費 6,326,000円（前年度予算 5,000,000円）

3) 森林利活用推進事業

財団森林内において森林の利活用を積極的に推進し、地域住民や阿寒湖を訪れる多くの観光客に、森林との触れ合いを深めてもらうことによって、森林の重要性や財団の森づくりへの理解をすすめる。

特に、今年度から、NPO阿寒観光協会まちづくり推進機構と連携し、地域住民等が身近な一步園財団の森林と触れ合う機会をより一層多くするため「一步園ふれあいの森」事業をすすめる。また、森の国である北欧スウェーデンとの交流事業をおこなう。加えて、森林利活用事業を円滑に実施するために推進委員会を開催する。

事業費 4,595,000円（前年度予算 2,300,000円）

(4) 顕彰事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体、個人の優れた業績をたたえて前田一步

園賞（２００，０００円／件×２件）を贈呈するとともに、未来の自然環境を担う子供達（小中学生）の自然環境の保全活動等への取組みの励みとするため、一步園ジュニア自然環境賞（１００，０００円／件×３件）を贈呈する。

事業費 ２，１００，０００円（前年度予算 ２，５００，０００円）

（５）地域保全事業

１）山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具などに対して助成を行う。

事業費 ３００，０００円（前年度予算 ３００，０００円）

２）エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔地区におけるエコミュージアムセンターの活動に対して助成を行い、地域環境の保全に資する。

事業費 ８００，０００円（前年度予算 ８００，０００円）

（６）前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行う。今年度、建物の老朽化に伴う一部修繕工事を行う。

事業費 ４，７００，０００円（前年度予算 １，２００，０００円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成24年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良等に取り組む。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止及び自然保護思想の普及等を図るため、林内の巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を行う。

事業費

2,373,000円（前年度予算 2,480,000円）

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成22年度のエゾシカによる農林業被害額は59億4,400万円（前年度比8億6,200万円増）と深刻な状況が続いている。このような中であって、財団管理山林内においてはこれまで継続してきた給餌や囲いワナによる捕獲により樹皮喰等の被害を抑制することに成功しているが、全道的な被害の拡大状況を鑑みると依然として全域において危険にさらされている状況である。

このため、平成24年度も、前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった森林被害防止対策を継続して実施する。また、これらの対策とあわせて、エゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学や研究機関と連携して調査をすすめていく。加えて、ボランティアによる樹皮防護ネット巻き活動の支援を行う。

事業費

11,000,000円（前年度予算 11,000,000円）

3) 林道事業

既設の林道・作業道およびゲート等の関連設備の補修・改良を行う。

事業費 13,000,000円（前年度予算 6,950,000円）

4) 調査事業

人工林保育・天然生林改良の計画立案に必要な林況を把握するための調査を行う。

事業費 2,000,000円（前年度予算 2,500,000円）

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を行う。

事業費 500,000円（前年度予算 1,000,000円）

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭に係る「苗木の購入」、「地拵え」、「下刈」を行う。

事業費 393,000円（前年度予算 1,020,000円）

2) 人工造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、平成20年～23年の植栽地4.5haの下刈作業を行う。

事業費 180,000円（前年度予算 227,000円）

3) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林59haの除間伐、8haの枝打ち、および伐採木（400m³）の搬出、ならびに作業路の開設を行う。

事業費

13,257,000円（前年度予算 19,450,000円）

（3）天然生林改良事業

1）誘導造林事業

天然林の林分構成の充実を図るため、天然林の樹下にクロエゾマツの苗木（20,000本）を植栽する。

事業費

7,840,000円（前年度予算 3,999,000円）

2）誘導造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、平成19年～23年の植栽地50.0haの下刈作業を行う。

事業費

1,250,000円（前年度予算 1,300,000円）

3）広葉樹林改良事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、過熟木、衰弱木、傷害木及びエゾシカによる食害木の整理伐、および伐採木（1,200m³）の搬出、ならびに作業路の開設を行う。

事業費

26,344,000円（前年度予算 37,500,000円）

（4）業務費

山林事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」。

事業費

950,000円（前年度予算 1,400,000円）

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定され、さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されていることなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り、地域の振興に資するため、前年度に引き続き、土地の貸付を行う。

（1）土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理に係るゲート等の設置工事（阿寒ビューホテル跡地）の実施。

事業費

500,000円（前年度予算 0円）

（2）土地貸付

前年度に引き続き、表3－1のとおり土地の貸付を行う。

（表3－1）土地貸付等状況一覧

契約区分	平成23年3月時点		平成23年12月現在		備考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	210件	551,864 m ²	211件	553,275 m ²	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	19件	346,115 m ²	19件	346,115 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
計	229件	897,979 m ²	230件	899,390 m ²	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充整備と安定供給体制をより一層強化することを目的に、非常警報システムの運用や源泉間のバックアップ体制の整備等の計画的な推進及び予備の水中ポンプ確保と、温泉需要者との情報交換等を行う事業を引続き行うとともに、温泉の資源量調査とエネルギーとしての温泉の有効利用を検討する事業を本年度も継続して行う。

(1) 前田一步園財団温泉推進連絡会議

温泉事業をより一層円滑に推進するため、地域の関係者と情報交換を行うとともに、専門家を講師として招き温泉に関する新たな情報を得る。

事業費

30,000円（前年度予算 300,000円）

(2) 温泉供給施設の整備

1) インバーター整備事業

河田2号源泉において使用量に連動した揚湯量の制御をするためインバーター装置を設置する。このことにより安定供給を図るとともに、消費電力量を節減する。

事業費

5,000,000円（前年度予算 600,000円）

2) 温泉ポンプの拡充事業

河田2号源泉の常用運転に伴い、予備の温泉用ポンプ及び揚湯管（4m／本）を25本購入する。また、チップ川源泉の水位低下に対応するため、深井戸用の水中ポンプを購入し、温泉の安定供給の確保に努める。

事業費

4,700,000円（前年度予算 1,500,000円）

3) 温泉計量器の交換整備事業

故障中の温泉計量器（流量計）を交換整備し、温泉供給量を把握することにより、温泉の安定供給の確保に努める。

事業費

500,000円（前年度予算 700,000円）

4) 温泉成分の分析事業

法令で定められた10年ごとの温泉成分の分析を4源泉（11号、15号、16号、正次6号）にて実施する。

事業費

600,000円（前年度予算 800,000円）

（3）阿寒湖温泉の温泉資源量評価及び温泉熱エネルギー適正利用推進事業

温泉資源を保護しながら安定した温泉利用を推進するために、改めて現在の資源状況を物理探査、地化学調査、坑井調査等により確認し、総合的な資源量評価を行う。そのうえでエネルギーとして温泉の有効利用を検討する。

なお、本事業は、平成22年度から平成24年度までの3年間の事業であり、本年度は3年目にあたる。また、実施体制は、地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所へ委託するとともに、一部の調査は(株)阿寒グランドホテルと共同で実施する。

事業費

830,000円（前年度予算 900,000円）

（4）源泉及び温泉供給設備の管理

平成24年1月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（内、稼働中12本、非常時用予備1本、観測井2本）である。前年度に引き続き、平成24年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努める。

（5）温泉供給

前年度に引き続き、表4-1のとおり温泉供給を行う。

(表4-1) 温 泉 供 給 状 況 一 覧

供給区分	平成 23 年 3 月現在		平成 23 年 12 月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	70 件	346 本	70 件	324 本	
無償供給	3 件	4 本	3 件	4 本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3 本		3 本	暖房等財団諸施設
計	73 件	353 本	73 件	331 本	

5. 財団設立30周年記念事業

設立30年（平成25年度）の記念事業を検討するため、NPO阿寒観光協会まちづくり推進機構や街づくり団体、釧路市等地域の関係者を中心メンバーとした検討会を設置し、検討を進めてきていたが、この検討内容や地域の要望を踏まえ、平成24年度にその一部について事業を実施するとともに、準備のための事業に着手する。

(1) 記念コンサート

前田一步園財団創立30周年及び阿寒湖アイヌシアター「イコロ」オープニング記念として、世界的ヴァイオリニスト五嶋みどりのコンサート「音楽の贈りもの from ミュージック・シェアリング」を、阿寒湖アイヌシアター運営協議会（NPO阿寒観光協会まちづくり推進機構、阿寒湖温泉旅館組合、アイヌ工芸協同組合）との共催で開催する（会計区分:法人会計）。

事業費

2,000,000円（前年度予算 0円）

(2) 「森の学校（仮称）」構想検討事業

財団森林を活用して、自然学習、散策、森林浴、トレッキング、自然学習、森林研究等、様々な活動が展開できるように、森林の管理や施設整備の在り方や活用を推進するための関係機関との連携の在り方等について検討するため、専門家等による会議を開催し、構想と具体的な整備の方針をまとめる（会計区分：実施事業等会計 自然普及事業 森林利活用推進事業）。

事業費

1,895,000円（前年度予算 0円）